

# 9,000 kmを越えて 紡がれる絆

ドナウエッシンゲン市学生訪問団が来市



本市と海外友好都市盟約を結んでいるドナウエッシンゲン市（以下、ド市）の間では、学生たちが隔年でお互いのまちを訪れ、異文化を学んでいます。

7月30日～8月10日、ド市の学生訪問団10人が本市を訪れ、ホームステイなどを通し交流を深めました。

エリアス・ボッシュさんは「地域の人や、同世代の人たちなど、たくさんの人たちと楽しく過ごすことができました。学校や保育園の見学では、部活動やお

昼寝など、時間の過ごし方が全然違うことを知ることができて楽しかったです。ドイツに戻ったら、上山の魅力を多くの人に伝えたいです」と笑顔で振り返りました。

また、ホストファミリーの中には「今度は自分がド市に行ってみたい」と意欲を高める人も。毎年訪問するメンバーが変わっても、こうして本市とド市の絆は紡がれています。



1・2\_明新館高校を訪問。書道や琴の演奏、茶道、うどん作りなど日本文化を体験しながら、生徒たちと交流した（8月2日）／3\_JRかみのやま温泉駅で訪問団を見送る。寂しさに涙を流しながらも、「また会いましょう」と笑顔で記念撮影（8月10日）

## VOICE

今年が初めての受け入れだった木村さん一家に感想を聞きました。



木村浩之さん一家

（左から）浩之さん、真子さん、優希さん、キアラ・レッドマンさん、美香さん

## 「言葉」が違っても「心」は通じ合う

昨年、娘の優希が学生訪問団として参加したことをきっかけに、ホストファミリーに応募しました。

言葉が通じるか不安はありましたが、スマートフォンの翻訳アプリを活用しながら、次第に身振りや表情、片言の英語でコミュニケーションをとることができるようになりました。キアラさんも、趣味の話など、気になることを自分から話してくれるようになり、とても嬉しかったですね。

中学生、高校生の娘たちにとっても、異文化に触れ、外国人に親近感もてるようになったことはとても良い経験になりました。今はメールなどでいつでも連絡がとれる時代。娘たちにはこれからも、将来に向けて互いに励まし合い、国境を越えて刺激し合っていてほしいと思います。